

あ と が き

本校が、「学びの質の高まりをめざして」今年度で4年目になります。この間、校内授業研究会、複式教育研究会、夏季教科領域等研修会、教育研究発表会など、さまざまな機会を通して子どもの学びの質を高めるための授業改革・カリキュラム改革・学校改革に取り組んできました。研究を進めるにあたり、多くの先生方にお力添えをいただきました。秋田喜代美先生には、お忙しい中、スケジュール調整をしていただきながら、平成21年度の研究発表会に続き、今年度も「吟味を生み出す対話」をつくる ～教師の言葉とコミュニケーション～と題してご講演をいただきました。多くの諸先生方に支えていただきながら、ここまでこれたことを本当に有り難く思います。

今年度は、学びの質の高まりをめざすために、「吟味を生み出す対話」をつくることをサブテーマに掲げ、4月から「吟味」とは何か、「吟味を生み出す対話」をつくるためにどうすればよいかなど、実践を通して話し合いを重ねてきました。また、子どもの学びの質を高めるために、「聴き合い学び合える学級風土」をつくる、「みとりと支援」を行う、「プロジェクト型学習」をつくる、「協同的な学び」を進める、「自己の課題」をもつという5つのことを大切にしてきました。まだまだ不十分ですが、子どもの学びの質が高まることをめざして取り組みを続けてまいりました。

本年度の研究発表会の講演の中で、秋田喜代美先生に「去年以上に子どもも先生も落ち着いている」。「1年から6年の育ち、4月から10月の育ち」と「育ちが見える学校・先生の取り組みが見える学校」になってきたと言っていただきました。教員が真剣に子どもと向き合い、試行錯誤しながら子どもの学びを吟味してきた結果であると考えています。

私たちは、「育ちが見える学校・先生の取り組みが見える学校」という確かな手応えをバネにし、今後も研究を進めていく所存です。

ここに収録されている実践記録は、ささやかではありますが多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長 沖 香寿美